







取組み事項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信		退院調整部門 退院調整部門の概要	③地域連携を促進するための取り組み		④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	ICT(情報通信技術)を用いた病診連携等	退院調整部門の概要	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルバスの種類・内容	地域連携クリティカルバスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
北九州 (11病院)	31	独立行政法人国立病院機構小倉医療センター(H20.4.1)	一般350 精神50	2020年2月(公財)日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審予定	毎月、メール便にて600程度の医療機関等へ、院内広報誌(鷗(かもめ)を四半期に1度発行)や、院外関係者向けの研修案内、春ヶ丘健康宅配便の案内等、さまざまな情報を発信している。	画像情報システム(CaRna)を使い、24時間365日画像検査の予約が可能となっている。(平成30年5月よりとびうめネットの運用を開始した。)	地域医療連携室に退院調整部門があり、SW4名、看護師3名が担当している。	当院は、脳疾患関係の診療科が無いため、脳卒中バスは行っていない。また、大腿骨バスは整形外科の医師異動により専門分野が変更となったため今後検討していきたいと考えている。	バスの運用ではないが、下記の取組を実施している。 ・平成21年より全国で初めて周産期医療特化型医師搬送用ドクターカーを運用。開業医で出生した新生児の急変対応に際し、小児科医を緊急的に派遣している。 ・また、近隣産婦人科開業医での新生児健診のため、小児科医を派遣し密な連携体制を築いている。 ・精神科を有する地域周産期母子医療センターとして、精神疾患併妊産婦の妊娠・分娩管理を実施しており、院内連携のみならず、地域社会(保健師等の自治体担当者)との連携も積極的に実施している。	8,801名 西南女学院大学、専門学校北九州看護大学校、遠賀中央看護助産学校、福岡女学院看護大学、北九州戸畑看護専門学校、北九州小倉看護専門学校、福岡看護専門学校、福岡水巻看護助産学校、福岡保健専門学校
	32	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院(H21.4.1)	一般450	(公財)日本医療機能評価機構機能種別評価版評価項目3rdG:Ver.1.0[一般病院2](平成25年11月1日)	診療連携広報誌の発行(年4回、送付先約700医療機関)、患者向け広報誌の発行(年4回+α(必要に応じ臨時発行)、1,500部/回)、ホームページの随時更新、連携医療機関を対象とした医療連携懇談会の実施(年1回)、京都医師会との合同症例検討会の実施(年1回)、市民公開講座の開催(年3回)、救急隊との座談会(年1回)	現在はまだ導入されていないが、将来的に導入する方向で検討中。	①退院の阻害因子を抱えた患者をできるだけ早期に発見し、介入・支援を行う。 ②患者・家族の主体的な参加を促し、満足のできる退院支援活動を行う。 ③地域との連携を円滑に行い、スムーズに退院支援を行う。 ④病棟やスタッフ間で統一した方法で退院支援ができるよう、退院支援活動に係る知識やシステムの啓蒙を行う。	大腿骨近位部骨折地域連携バス、脳卒中地域連携バス	北九州市大腿骨近位部骨折地域連携バス協議会(病院長が協議会の長に就任)への参画、北九州市脳卒中地域連携バス協議会への参画、医局会等での院内医師に向けた利用促進を依頼	133名 京都医師会看護高等専修学校、小倉南看護専門学校、製鉄記念八幡看護専門学校、西南女学院大学、日本赤十字九州国際看護大学、福岡県立大学
	33	健和会大手町病院(H21.4.1)	一般499	(公財)日本医療機能評価機構3rdG一般病院2:2014年認定 付加機能救急医療機能Ver.2.0:2015年認定	ホームページや広報誌(隔月発行)により情報公開している。医療活動の取り組み内容をまとめ発表している医療活動交流集会の開催や医療活動をまとめた医報を発行している。当院の登録医理事と登録医合同運営会議を3ヶ月に1回開催し、活動内容等を含めた情報交換を行っている。	福岡県医師会診療情報ネットワーク参加	医療相談・医療福祉連携部に退院支援部門を設置しており、退院支援看護師2名・社会福祉士7名が退院支援にあたっている。緊急入院で複雑な問題(老々介護や同居等)を抱えている患者が多く事前の情報収集・支援等が困難なため、入院翌日に退院支援看護師が全患者の情報確認を行ない、支援の必要性を判断し早期に介入するよう努めている。また、病棟回診・カンファレンス等に参加し院内外多職種との情報交換を行い問題解決に努めている。医療以外の問題を抱える患者の紹介も多くあり、そのような場合は受け入れ時より退院支援看護師が関わることで、地域医療・介護機関での問題を事前に捉え支援を開始している。精神科疾患を有する患者への医療提供も多く地域の精神科医療機関や精神保健福祉センターなどとの連携も強化している。	胃瘻ボタン交換連携バス、脳卒中連携バス	各施設や医療機関との意見交換を行い、地域の医療機関の会議に参加している。	484名 健和看護学院、北九州市小倉看護専門学校、北九州市戸畑看護専門学校、製鉄記念八幡看護専門学校、ソフニエ看護専門学校
	34	北九州市立医療センター(H23.4.1)	一般620 感染症16	(公財)日本医療機能評価機構による病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)の認定(平成30年8月3日)	ホームページ・Eメール・FAX・病院広報誌「輪」(年4回発行)・SNSを活用し、登録医や地域の医療機関に向けて、医療連携や地域の医療従事者を対象にした研修等に関する情報を発信している。毎年、「診療案内」を作成し、登録医や地域の医療機関等へ送付している。また、近隣連携医療機関への訪問時にも、当該「診療案内」を配布している。患者・市民を対象に広報誌「こんにちは!!医療センターです」(随時発行)にて情報提供している。 看護・助産学生、薬剤師・臨床検査技師の学生の受け入れを積極的におこなっている。	・地域医療の質の向上を図るため、地域医療連携ネットワーク「連携ネット北九州」を導入し、当院で受診した際の検査結果等を地域の医療機関とインターネットで共有している。今後も、地域医療機関等の意見を伺いながら、随時閲覧可能な内容等を拡張していく。 【高額医療機器の予約】CT検査、MRI検査、RI検査、X線撮影検査、骨密度検査、マンモグラフィ、腹部エコー、体表エコー、頸部血管エコー 【閲覧可能な内容】上記検査と内視鏡の画像・レポート、血液・生化学検査、処方箋(服薬・注射)、病理診断、細胞診断、退院時予約、看護要約 ・今後、福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」に加入し、より幅広く情報発信を行っていく予定である。	退院後も様々な生活ニーズや課題を持つ患者・家族に対して、適切な退院先を確保し、安定した療養生活を送っていただくために、医療連携室・相談室を設置し、ソーシャルワーカーと看護師が協力して、退院調整を行っている。	福岡県がん地域連携バス:胃がん(7施設7件)、大腸がん(2施設2件) その他のクリティカルバス:脳卒中(1件)	退院時にバスの利用を積極的に薦めているほか、計画的に地域の医療機関を訪問し協力を求めている。	357名 小倉南看護専門学校、西南女学院大学、北九州小倉看護専門学校、北九州市立看護専門学校、門司区医師会看護高等専修学校、久留米大学、福岡県看護協会、国際医療福祉大学
	35	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院門司メディカルセンター(H24.7.27)	一般250	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価版評価項目3rdG:Ver.1.0取得(平成26年3月7日)	紹介患者に対する医療の提供、MRI、CTの医療機器の共同利用の実施、救急医療の提供、地域の医療従事者に対する研修をホームページに掲載し、地域の医療機関向けに「地域医療連携室だより」、情報誌「潮流」等を送付し、医療の質の向上等様々な情報発信を行っている。内科・外科・整形外科・放射線科の合同カンファレンス、また、救急搬送1,000件以上に、救急隊との事例検討会も実施している。	福岡県医師会診療情報ネットワーク(とびうめネット)に参加しており、開業医の主治医が不在の時でも救急隊から搬送された患者さんの情報を得ている。	平成29年5月に入院支援センターを開設。退院前カンファレンス、ケアマネージャーへの情報提供、退院先医療機関の紹介、調整に加え、入院前より患者さんの情報収集を行い、退院支援・退院調整を入院時期より開始している。	脳卒中地域連携バス(使用開始は30年6月)	「地域連携バス協議会」に参加し、情報共有しながら各医療機関との連携強化を図っている。	1,024名 門司区医師会看護高等専修学校、北九州市戸畑看護専門学校
36	遠賀中間医師会おんが病院(H24.7.27)	一般100	(公財)日本医療機能評価機構による評価を2020年度に受審する予定	院外の関係者に向けた研修、消化器カンファレンスや糖尿病カンファレンス、画像カンファレンスなどの開催情報や地域患者さん向けの糖尿病教室などの研修開催情報 開放型病院として登録医などとの連携情報(患者さん紹介や転院、医療情報提供など、病院情報の提供) 他病院・クリニック様等向けへの検査依頼・結果確認方法などの情報 在宅支援として24時間対応可能な訪問診療の提供や在宅医療内容、訪問リハビリ、訪問薬剤、訪問栄養内容 病児・病後児の受け入れを積極的に行っている 看護学校実習生の受け入れを積極的に行っている 手術件数、患者数などの統計データやDPCによる診療情報の公開 広報誌「地域と生きる」にて情報提供を行っている	福岡県医師会診療情報ネットワークの「とびうめネット」へ参加	退院後の患者・家族の課題に対して安定した療養生活を送れるように、地域医療連携室に退院調整部門を設けており、MSWや看護師が協力し、入院時から患者及び生活環境等の情報把握を行い、必要に応じて訪問診療、往診や訪問看護、訪問リハ等の在宅サービスを調整している。また、看護師による退院後の訪問指導を対象患者に行っている。	福岡県医師会のがん地域連携バス:胃癌、大腸癌	医師会及び地域クリニックへ訪問がん連携拠点病院への情報提供等	100名 遠賀中間医師会遠賀中央看護助産学校	
37	北九州市立八幡病院(H30.4.1)	一般439	—	ホームページ・FAX・診療案内・病院広報誌・医療連携会・医療機関訪問により、登録医や地域医療機関等に診療内容や研修会等に関する情報を発信している。また、市民を対象にした病院広報誌や市民公開講座開催により情報を提供している。	とびうめネットの活用により緊急入院患者のかかりつけ医と診療情報を共有し、効果的な診療提供を図っている。	医療連携室に退院調整部門を設置し、患者・家族が退院後も安心して療養生活を送れるように医療連携室担当看護師及び社会福祉士が入院早期から患者・家族に面談し退院支援・調整を実施している。	脳卒中地域連携バス(北九州標準モデル)6施設17件 大腿骨近位部骨折地域連携バス(北九州標準モデル)3施設21件	関連医療機関に連携クリティカルバスの概要を説明するとともに、周知を図っている。	249名 八幡医師会看護専門学校、美萩野女子高等学校、西南女学院大学、福岡保健・スポーツ専門学校	
京葉 (1病院)	38	新行橋病院(H22.4.1)	一般246	(公財)日本医療機能評価機構による機能種別評価版評価項目2ndG:Ver.5.0(平成21年9月27日取得)、3rdG:Ver.1.0(平成26年8月取得)	本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知している。広報誌(年4回)、連携室便り(年2回)を各病院等へ配布するなどし、診療所と情報を共有するよう努めている。	とびうめネット、メディックNETを用いた病診連携。	主に医療連携室が看護師と連携を図り、退院先や退院後の相談を受け調整している。	地域の病院やクリニックへ訪問し、連携への協力を促している。	147名 京都医師会看護高等専修学校、豊前築上医師会看護高等専修学校、美萩野女子高等学校、福岡水巻看護助産学校、下関看護リハビリテーション学校、福岡看護専門学校	